

よさのうみ福祉会 広報誌

福祉よさのうみ

きょうと福祉人材
育成認証制度



2021年
7月1日
No.122

〈発行〉社会福祉法人 よさのうみ福祉会 〒629-2314 京都府与謝郡与謝野町字岩屋600-6 TEL 050 (3532) 0601 FAX 0772 (43) 0606

障害のある人のゆたかな地域生活の実現を!

URL <http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp>



ネギとったぞー



出荷作業中



すまいる農耕班

九条ネギ収穫開始

すまいる 支援員 濱中 哲也

「おもしろきこともなき世をおもしろく」
これは幕末の志士高杉晋作の言葉です。解
釈としては「おもしろくない世の中も気持
ちの持ち方によっておもしろくできる」と
いった意味だそうです。

すまいる農耕班では昨年4月から「とに
かく農業を楽しもう」をスローガンに1年
間をみんなで走ってきました。

冬は氷のように冷えた水で野菜を洗い、
夏はサウナ状態の中で作業をし…それでも
けつして弱音を吐かず作業をされる仲間を
見ると「すごい」と目頭が熱くなります。

そして京都府の補助金を活用して3棟の
ビニールハウスも建ち、今年4月から「九条
ネギ栽培」が本格始動することになりました。

ハウス栽培の導入により日々の作業が様
変わりし、バタバタと収穫と出荷作業に追
われる毎が続きます。仲間達は「収穫は大
変やけど、おもしろいな」「野菜が育って
いくのを見るのがおもしろい」
と言われます。大変な農作業で
も全てでは自分たちの心の持ち
ようでおもしろくできるのだ
と思います。

次なる目的は?「仲間たちの
頑張りをみんなに伝えたい」そ
れが私の使命です。



よさのうみ福祉会設立40周年記念イベント

地域に届きつながらる取り組みを

40周年記念企画イベント責任者 ホームゆめおり 管理者 三宅 真奈美

よさのうみ福祉会は、昨年法人設立40周年を迎えました。本来なら年度内に記念コンサートを開催する予定でしたが、コロナ禍のため残念ながら延期となりました。そのため、この状況下においてもできる企画を担当者で検討してきました。

そして今年度はコンサートを断念し、新たにインスタグラム配信、記念グッズ作成、絵画展と3つの企画を12月までを期限として取り組みます。インスタグラム配信では、各事業所の利用者の生き生きとした姿を気軽に見ていただくと共に、40周年記念イベントの情報も随時投稿していきます。

記念グッズの企画では、各事業所の製品に40周年記念シールを貼り、地域の方にお知らせします。

また、日頃ご協力いただいている関係者の皆様に感謝の気持ちを伝える記念品として、花の種や記念クリアファイルをお届けしたいと考えています。

絵画展は利用者の作品を見ていただく機会として12月に開催する予定です。この作品展には地域の方にも依頼し多くの作品を展示し、

皆で楽しみたいと考えています。

コロナ感染対策を徹底しておこないますのでぜひ会場にお越しください。

今回これらの取り組みやイベントを通して、地域の皆様に共感の輪を大きく広げ、利用者の方にも達成感や満足感が味わえる機会にしたいと思っています。コロナ禍によりイベント開催がむずかしい状況ですがその中でもできること、楽しめることを考え、新たな希望につながるよう取り組みでいきます。この記念イベントが成功できますようにどうぞご協力よろしくお願いします。



簡単!QRコードからフォロー



YOSANOUMI40TH

インスタグラム配信中!フォローお願いします



「コロナ禍だからこそ笑顔で

伊根の里 支援員 平林 将士

昨年は毎年楽しみにしていたふれあい旅行や、地域でのイベントも軒並み中止となりました。そこで、コロナ禍の閉塞感のなか、これまでドライブやDVD鑑賞などややもすると職員主導になっていた毎月第1・第3土曜の取り組み内容を直しました。伊根の里は利用者14名と法人内で最も小規模の日中事業所で、だからこそできることがあるはずです。

まず一人一人に聞き取りをおこなうと、これまでしてみたかったけれどももする機会が無かったことがたくさんありました。そこで各利用者の希望の取り組みが確実に実施できるよう年間計画を作成しました。土曜はふだん20食ほど作っているお弁当作業と、下請け、資源回収がないため職員体制もあります。その個別余暇支援の取り組みの一部を紹介します。

たとえば、「温泉に浸かり日頃の疲れを癒したい」という希望に添えてクアハウスに職員と二人で行きほつこりました。また伊根町と言えは海!だけど魚釣りをしたことがないという利用者3名と魚釣りに行きました。小さいけれど赤鯛やチヌが釣れて「わー、釣れた!」と驚き、歓声があがりました。

お寺巡りが好きな方とは町内のお寺を巡り、住職からお話を聞きました。「お好み焼きや焼き飯を食べに行きたいな。ただコロナでお店に行くのは…」という声に

応えて、施設内でお好み焼き、焼き飯を作り、「手作りのほうがやっぱりおいしいかも!」などの嬉しい声が聞こえてきました。「最近運動をしてないな」という方のためには、施設の隣の旧朝妻小学校のグラウンドを借りてグラウンドゴルフをしたり、卓球バレー、風船バレーなど趣向を凝らし実施しました。するとふだん静かな方から「ナイス!」「そっち行っただけ!」などの声掛けがあり、やはり仕事以外の場では違う様子が垣間見えることを実感しました。

困難なことがあっても、利用者の事を第一に考えた取り組みができたことは職員にも大きな経験になりました。



「グラウンドゴルフ 楽しい!」



「わー釣れた!」



「お好み焼き、おいしいわ!」

2020年度

法人事業報告及び
決算概要説明

社会福祉法人よさのうみ福祉会

1. より良い支援・実践めざして
「障害者虐待再発防止対策

「障害者虐待再発防止計画」障害のある人たちに対するより良い実践・支援のために」について2020年度は、①職員の人權を尊重する意識の醸成と支援・実践力の一層の向上、②職員集団の質を高め組織内の風通しを良くする、③虐待再発防止計画の定着を3つの重点課題とし、その具体策としての20項目について取り組みを進めました。

利用者支援の共有化を図るための事業所単位の事例検討会、組織活性化委員会による京都府「福祉職場組織活性化アンケート」結果分析と検証、スマートフォンを使った意見投稿、理事長による各事業所職員懇談会、チャレンジシートと個別面談、事業所ごとの虐待防止委員会の開催などを取り組みました。さらにエリア代表者会議や法人虐待防止委員会が定期的に進捗状況を確認しました。

また、法人虐待防止委員会による「虐待防止セルフチェック」実施とその結果に基づく論議、事業

所ごとの「虐待防止研修」「ヒヤリハット学習会」を実施しました。

2. 職員の確保と育成

(1) 利用者支援の向上と職員育成「職員育成委員会」が研修を含む職員育成全般についての立案や企画・検証をおこないました。

「教育研修委員会」はそれらに基づいて法人内の研修会を実施しました。研修会開催後は次年度につなげるために各研修の中でそれぞれの職員の学んできた中身について検証し、法人としての継承や学びの内容を明らかにしてきました。「新任職員研修」「フォローアップ研修」「中堅職員研修」「主任研修」「管理者研修」などの階層別研修会、「法人内事業所見学ツアー」「交換実習」個別支援計画の作成に関わる「支援員研修」などを実施しました。しかし、「チームリーダー研修」と「主任・管理者対象視察研修」は新型コロナウイルス緊急事態宣言もあり中止しました。

法人40周年企画や全職員研修として位置づけていた「実践報告会」も新型コロナウイルス感染防止のため、担当者や主任のみが参加して開催しました。「働く」「暮らす」のレポート報告と意見交換をおこない、佛教大学の鈴木勉教授と田中智子教授の講義の様子を録画し、その後各事業所において主任等が中心となって録画内容の視聴と論

議をおこなうことで全職員研修としました。

(2) 職員の確保

いきいき、ホーム、ヘルパーステーションなど変則勤務にある職員の配置は引き続きより困難な状態が続いています。ハローワーク以外にも6社の民間人材派遣会社と契約をおこなって、職員の確保に努めました。その結果、大学新卒者、インターン生などの職員を確保することができました。

(3) 職場環境の改善

職員の職場や仕事に対する思いを把握すること、さらにそれらをもとに、より風通しの良い法人・事業所とし組織を活性化する取り組みを進めるために2020年度は法人の理事、評議員、主任や一般職員のさまざまなメンバーで「組織活性化委員会」を発足させました。「京都府福祉職場組織活性化アンケート」を、全職員を対象に実施しました。その集約結果を分析し、それらを今後の法人組織運営にどのように生かしていくのか、その具体的取り組み内容について意見交換をおこないました。

3. 第3次3カ年計画の策定

2020年度は第3次3カ年計画（2021年度～2023年度）を策定する年度でした。この計画

は、第2次3カ年計画の「次世代へのバトンタッチ」を引き続き大きなテーマにし、生活の基盤となる「暮らし・生活支援」に重点をおいて、「3つの柱」と「5つの課題」を掲げています。

3つの柱は、①暮らし・生活の充実、②職員育成、③組織再編。また、5つの課題は、①より良い支援・実践めざして虐待防止に向けた取り組み、②工賃向上、③リフレかやの里と就労継続A型事業、④多様な障害者の受け入れ、⑤地域へのアプローチです。

第3次3カ年計画の中でも重点課題となる「暮らし・生活支援」の2021年度論議を進めるにあたって、2020年度は、法人事業に関わる全ての利用者・家族を対象に暮らしに関する聞き取り調査を実施しました。

4. 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症は当法人の事業、利用者や家族、職員に2020年度1年間を通して大きな影響を与えました。

利用者や職員が濃厚接触者となり事業所を一時休所したり、該当の利用者や職員が自宅待機となる事例はありましたが、感染予防対策により利用者や職員が感染者となる事例はありませんでした。

事業所の一時休所や利用者の利用控え、就労事業売上げの減収

と利用者工賃の減額、支える会（後援会）や家族会活動の制限、法人40周年記念事業の内容や時期の変更、職員の研修などの制限、実習生や見学者の受け入れ制限など、新型コロナウイルス感染症の影響を受けました。

一方で、法人統一の感染防止対策の徹底、感染者や濃厚接触者等が発生した場合の法人全体及び事業単位のマニュアルの作成、感染防止備品等の補助金を活用した整備、オンライン形式での会議や研修など、感染防止対策に努めました。

今後はワクチン接種もはじまりますが、引き続き感染防止対策の徹底、利用者や職員に感染者が発生した場合の事業継続の方法の一層の論議などを進めていかなくはなりません。

5. 地域へのアプローチ

(1) 法人40周年

法人40周年事業は、①生き生きと働き暮らす仲間の姿を地域に発信する、②地域で連携して取り組むことで人材育成の機会とする、③京都北部の運動の歴史を次世代に引き継ぐ、などを目的に2020年度に実施する予定で進めてきました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、その内容や実施時期を変更せざるをえないこととなりました。実践報告会は

報告会の開催と各事業所での学習と論議という形式や時期を変更して2020年度に実施することができました。プロモーションビデオ、ロゴマーク、インスタグラムによる配信、美術展、記念グッズ、実践報告会冊子については、2020年度に担当者での論議・準備を進めてきました。2021年4月には法人40周年ポスターも掲示して、2021年度4月から本格実施します。

(2) 地域連携・法人間連携

リフレかやの里における農福連携の取り組みや「やすらの里」(ワークセンター花音)における異業種間の協働は、地域ニーズ実現をめざす地域と福祉と行政の連携の具現化であり、これらの取り組みを引き続き進めてきました。

また、カフェシヨップ花鈴では、与謝野町より高齢者の介護予防・日常生活支援事業の委託を受け、食事会や手作り教室を開催してきました。地域の高齢者の生き甲斐や交流・活動の場をつくる機会となっていました。今年度は新型コロナウイルスの影響を受けて2回のみ開催となりました。

「クリエイティブショップくりくり」は、「京丹後市障害者事業所製品販売連絡協議会」におけるメインでの取り組みです。将来的に持続・発展の可能な店舗運営、組

織・財政構造など店舗のあり方やその存在意義について論議・検討を重ねました。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて売り上げが減少している中で、くりくりの2020年度売上は約1,082万円の過去最高の売上額となりました。

(3) 教育との連携、地域課題の解決

地域での障害者理解を広げるために小・中・高の各学校への講師派遣や実習受入を一層積極的に進めようとしています。特に法人40周年企画のプロモーションビデオを完成させ、2020年度は映像を通して地域に発信し、人権教育の教材として教育現場で活用して、小・中・高校生への啓発活動をおこない、障害者理解を進めることにしていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で実習の受け入れはどの事業所においてもほとんど無くなってしまいました。また、プロモーションビデオも2020年度内に完成できず活用することができませんでした。

(4) 「きょうされん」「京都北部障害者問題連絡会」の運動の中心的役割を担って

障害のある人たちの暮らしの向上、また事業所の諸課題解決のためには、国や地方自治体の施策や制度の充実が極めて重要です。そのため「きょうされん」や「京

都北部障害者問題連絡会」の運動に積極的に参加するとともに、法人職員を役員として派遣し運動の中心的役割を担っていました。

きょうされんの「国会請願署名」などの国への要望活動、京都北部障害者問題連絡会の地元市町村への要望活動にも積極的に取り組みました。当法人からきょうされん全国常任理事を派遣し、さらに「京都北部障害者問題連絡会」の事務局長をはじめとした役員を担っています。さらに、毎回の職員会議で全国的な情勢や対応を報告するなど、全国の法人との連携や交流などを当法人の実践や事業にも反映してきました。

6. 組織・事業所の特徴

(1) ホームゆめおりの移転統合

与謝野町内の老朽化した若草ホーム、おおぞらホーム、ほつとホームの統合のために、オーナー方式による実施について、場所・内容・資金計画など検討を進めました。

また、与謝野町の一層の支援を得るための町長への要望・懇談も実施しました。

(2) 宮津・伊根エリアにおける事業展開

すまいるの建物は2022年9月で借用期間が終了します。また、相談事業、居宅事業、ホームの3つの事業をおこなっているホーム

すみれの建物は老朽化が急速に進み、現状のままでは今後も建物を使用することは困難になってきました。

2020年度に土地・建物を購入し、国の補助金も得て建物を改修して4つの事業所を移転統合させる計画でしたが、残念ながら実施できませんでした。2021年度の早期にこれら課題の解決方向を明確にしなければなりません。

(3) 相談事業を通じた地域生活の支援充実

こまちが2019年に実施した「障害者雇用促進セミナー」が好評であったこともあり、2020年度は10月京丹後市、11月宮津市・伊根町・与謝野町の関係者を対象として地域別に実施することができました。

相談事業所では、事業所・自宅の訪問や与謝野町精神サロン事業の実施を制限したり、FAX等でのモニタリングもおこなって対応する場合など、新型コロナウィルスの影響を受けて様々な対応をしました。

また、入所施設等で新規の利用者の受け入れができない、ショートステイでの行き来ができない等、サービス調整に苦慮するケースが多々見られました。

(4) 居宅介護事業の取り組み

年度途中の職員退職にともな

い職員配置ができず、ヘルパーを派遣できない状況が生まれました。特に同行援護については、2020年3月から2021年2月まで1年間事業を休止せざるを得ませんでした。

また、新型コロナウィルス感染予防のために、利用を制限される利用者もおられ、感染予防の徹底等さまざまな面での対応を求められる状況となりました。

(5) リフレかやの里の次期指定管理にむけた取り組み

新型コロナウィルスの影響により法人内の多くの事業所の就労会計の売り上げが減少しています。リフレかやの里では、与謝野町から指定管理施設としてレストラン・ホテル・入浴の営業自粛の要請を4月末から5月末まで受けるなど、総入場者数は2019年度の62%減となりました。

与謝野町からの指定管理が2021年度で終了し、次期指定管理が2022年度からの5年間となります。レストラン・ホテル・入浴の事業は新型コロナウィルスの影響を受けており、これまで以上に2022年度以降の事業方法や継続についての論議が重要となっています。そうした中で2022年度以降のレストラン・ホテル・入浴の事業の在り方について、法人と与謝野町だけではなく民間企

業も含めた「サウンディング調査」(民間企業の意見や提案を受けて有効活用方法を検討する手法)を2020年度からはじめました。

(6) 委員会・部会活動の一層の活発化

当法人が各部門に共通する重要な課題に取り組むために、2020年度は5つの委員会と5つの部会等を設置して活動しました。それぞれの委員会・部会活動を引き続き活発に進めることにより、法人内の諸課題解決を推進することができました。

「大規模災害時対策諮問会議」は、当地域に大規模災害が起こった場合を想定し、法人や事業所における対策と対応について検討しました。2020年度はその答申を受けて「法人事業継続計画(BCP)策定会議」を設置して事業継続計画(BCP)を作成しました。

また、法人40周年記念事業については、法人内外に40周年の節目を伝え、共に取り組みを成功させることをめざしました。各企画に担当者を配置しその役割を担うとともに実施を通して職員育成の機会としても位置づけて取り組みました。

7.2020年度決算の主な特徴

サービス活動収益(収入)は、2017年度までは毎年前年度を上回って増加していました。

2018年度は法人として初めて前年度を下回りましたが、その後は2019年度、2020年度とも前年度を上回っています。そのうち障害福祉サービス等事業収益は、延べ利用者数の増加等により2019年度と比較して2020年度は約5,729万円増加し、これまでで最も高い129,669万円となりました。一方で新型コロナウィルス感染症の影響を大きく受けて、リフレかやの里の就労継続A型事業(レストラン・ホテル・入浴)の売り上げが約3,058万円減少(2019年度4,700万円↓2020年度1,642万円)するなど、法人全体の就労支援事業収益が2019年度18,657万円に対して2020年度は13,775万円と約4,882万円も減少しました。

サービス活動費用(支出)についても、新型コロナウィルス感染症の影響を大きく受け、職員の研修や出張に関わる費用や利用者の教養娯楽費について、2019年度と比較して約1,097万円の減少、また、利用者の工賃も給与や賞与を減らさざるを得ない事業所があり、総額2019年度6,695万円が2020年度は398万円減額となりました。

2018年度法人として初めてマイナス1.3%となった収支差率は、2019年度1.9%、2020年度2.7%となり、法人目標である3.0%には届きませんでした。が、少しずつ改善してきています。

法人単位貸借対照表

2021 年 3 月 31 日現在

社会福祉法人よさのうみ福祉会

(単位：円)

資産の部		負債の部	
勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
流動資産	860,611,236	流動負債	249,966,276
現金預金	563,573,015	事業未払金	166,804,382
現金	856,571	事業未払金(社会保険料)	6,890,044
小口現金	513,151	事業未払金(共済会)	1,311,444
施設普通預金	474,657,208	その他の未払金	29,026,729
就労普通預金	87,546,085	1 年以内返済予定設備資金借入金	13,346,000
事業未収金	238,794,096	1 年以内返済予定リース債務	2,057,880
事業未収金(給与)	8,300	職員預り金	21,385
事業未収金(利用料)	5,761,925	仮受金	1,356,870
未収金	9,347,742	賞与引当金	29,151,542
未収補助金	19,095,503	固定負債	142,344,260
給食用材料	318,919	設備資金借入金	133,044,000
商品・製品	3,880,737	リース債務	6,688,110
仕掛品	1,261,209	退職給付引当金	2,612,150
原材料	5,265,585	負債の部合計	392,310,536
立替金	162,850	純資産の部	
前払費用	5,128,958	基 本 金	
短期貸付金	2,000,000	基 本 金	326,725,772
仮払金	6,012,397	国庫補助金等特別積立金	
固定資産	1,470,006,137	国庫補助金等特別積立金	462,694,785
基本財産	847,217,648	その他の積立金	
土地	112,258,000	その他の積立金	362,892,761
建物	733,859,648	人件費積立金	50,000,000
定期預金	1,100,000	修繕積立金	274,868,440
その他の固定資産	622,788,489	備品等購入積立金	38,024,321
土地	8,559,520	次期繰越活動増減差額	785,993,519
建物	38,567,348	(うち当期活動増減差額)	45,225,849
建物附属設備	111,282,821	純資産の部合計	1,938,306,837
構築物	23,413,726		
機械及び装置	6,784,114		
車輛運搬具	11,948,090		
器具及び備品	44,553,466		
権利	2,979,667		
ソフトウェア	23,328		
無形リース資産	8,745,990		
投資有価証券	100,000		
退職給付引当資産	2,612,150		
人件費積立資産	50,000,000		
修繕積立資産	274,868,440		
備品等購入積立資産	38,024,321		
長期前払費用	325,508		
資産の部合計	2,330,617,373	負債及び純資産の部合計	2,330,617,373

法人単位資金収支計算書
(自)2020年4月1日 (至)2021年3月31日

社会福祉法人よさのうみ福祉会

(単位：円)

勘 定 科 目			予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A)-(B)	備 考
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	145,355,876	137,754,693	7,601,183	
		障害福祉サービス等事業収入	1,293,457,944	1,296,688,477	△ 3,230,533	
		雑収入	8,045,825	9,203,625	△ 1,157,800	
		借入金利息補助金収入	271,656	271,656	0	
		経常経費寄附金収入	7,064,038	8,145,686	△ 1,081,648	
		受取利息配当金収入	151,377	151,513	△ 136	
		その他の収入	8,726,490	8,540,750	185,740	
		事業活動収入計(1)	1,463,073,206	1,460,756,400	2,316,806	
	支出	人件費支出	957,305,617	953,264,390	4,041,227	
		事業費支出	110,848,617	110,014,955	833,662	
		事務費支出	121,894,496	121,250,777	643,719	
		就労支援事業支出	156,192,039	154,133,961	2,058,078	
		利用者負担軽減額	223,200	222,521	679	
		支払利息支出	834,080	826,699	7,381	
		その他の支出	3,917,670	3,855,575	62,095	
		事業活動支出計(2)	1,351,215,719	1,343,568,878	7,646,841	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)			111,857,487	117,187,522	△ 5,330,035	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	18,203,487	17,901,279	302,208	
		施設整備等寄附金収入	4,422,778	4,969,430	△ 546,652	
		固定資産売却収入	30,000	250,000	△ 220,000	
	支出	施設整備等収入計(4)	22,656,265	23,120,709	△ 464,444	
		設備資金借入金元金償還支出	13,955,000	13,955,000	0	
		固定資産取得支出	42,559,296	42,431,467	127,829	
		固定資産除却・廃棄支出	1	0	1	
		ファイナンス・リース債務の返済支出	1,543,410	1,543,410	0	
		施設整備等支出計(5)	58,057,707	57,929,877	127,830	
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 35,401,442	△ 34,809,168	△ 592,274	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	50,329,447	50,385,862	△ 56,415	
		その他の活動による収入	0	134,853	△ 134,853	
	支出	その他の活動収入計(7)	50,329,447	50,520,715	△ 191,268	
		積立資産支出	110,782,582	110,782,582	0	
		その他の活動による支出	0	89,260	△ 89,260	
		その他の活動支出計(8)	110,782,582	110,871,842	△ 89,260	
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 60,453,135	△ 60,351,127	△ 102,008	
		予備費支出(10)	0	—	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)			16,002,910	22,027,227	△ 6,024,317	
前期末支払資金残高(12)			622,446,705	622,446,705	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)			638,449,615	644,473,932	△ 6,024,317	

第二号第一様式

法人単位事業活動計算書

(自)2020年 4月 1日 (至)2021年 3月31日

社会福祉法人よさのうみ福祉会

(単位:円)

勘定科目			当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A)-(B)
サービス活動増減の部	収益	就労支援事業収益	137,754,693	186,566,160	△ 48,811,467
		障害福祉サービス等事業収益	1,296,688,477	1,239,405,727	57,282,750
		雑収益	9,203,625	7,542,553	1,661,072
		経常経費寄附金収益	8,145,686	5,949,265	2,196,421
		サービス活動収益計(1)	1,451,792,481	1,439,463,705	12,328,776
	費用	人件費	981,705,841	956,443,959	25,261,882
		事業費	110,011,276	99,020,059	10,991,217
		事務費	121,250,777	127,088,159	△ 5,837,382
		就労支援事業費用	157,736,574	189,516,911	△ 31,780,337
		利用者負担軽減額	222,521	204,600	17,921
減価償却費		78,437,046	77,223,374	1,213,672	
国庫補助金等特別積立金取崩額		△ 32,810,773	△ 34,070,754	1,259,981	
サービス活動費用計(2)	1,416,553,262	1,415,426,308	1,126,954		
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		35,239,219	24,037,397	11,201,822	
サービス活動外増減の部	収益	借入金利息補助金収益	271,656	318,183	△ 46,527
		受取利息配当金収益	151,513	12,665	138,848
		その他のサービス活動外収益	8,540,750	7,974,300	566,450
		サービス活動外収益計(4)	8,963,919	8,305,148	658,771
	費用	支払利息	826,699	930,982	△ 104,283
		その他のサービス活動外費用	3,855,575	3,723,850	131,725
		サービス活動外費用計(5)	4,682,274	4,654,832	27,442
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		4,281,645	3,650,316	631,329	
経常増減差額(7)=(3)+(6)		39,520,864	27,687,713	11,833,151	
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	17,901,279	4,033,160	13,868,119
		施設整備等寄附金収益	4,969,430	15,166,934	△ 10,197,504
		固定資産売却益	250,000	0	250,000
		特別収益計(8)	23,120,709	19,200,094	3,920,615
	費用	基本金組入額	0	15,050,294	△ 15,050,294
		固定資産売却損・処分損	50,014	1	50,013
		国庫補助金等特別積立金取崩額 (除却等)	△ 33,208	0	△ 33,208
		国庫補助金等特別積立金積立額	17,398,918	3,530,800	13,868,118
		特別費用計(9)	17,415,724	18,581,095	△ 1,165,371
	特別増減差額(10)=(8)-(9)		5,704,985	618,999	5,085,986
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		45,225,849	28,306,712	16,919,137	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)		801,874,481	843,567,769	△ 41,693,288
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		847,100,330	871,874,481	△ 24,774,151
	基本金取崩額(14)		0	0	0
	その他の積立金取崩額(15)		49,675,771	0	49,675,771
	その他の積立金積立額(16)		110,782,582	70,000,000	40,782,582
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)		785,993,519	801,874,481	△ 15,880,962

きょうされん

第44次全国会請願行動

きょうされん全国理事

ゆうゆう作業所

管理者 山口 高志

政党懇談会と厚労省懇談会を取り組みました。

よさのうみ福祉会の各事業所も加盟しているきょうされんが、結成以来毎年取り組んできた国会請願行動。これまででは、きょうされん全国総会の翌日に障害当事者、家族もふくめ、関係者400人以上が国会議員会館に集まり、全国各地で集められた請願署名を手に一人ひとりの国会議員事務所を訪問したり、厚労省や各政党との懇談会を開催し、障害者施策の充実やわたしたちの願いの実現を訴えてきました。

障害のある人や家族、関係者の願いを直接届ける請願行動は、きょうされんにとって最も大切な活動の一つです。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大のため、昨年は残念ながら全国の会員が直接参加する形での請願行動を取り組むことができませんでした。

今年も昨年同様、一同に会しての請願行動はできませんでしたが、初めてWEBを活用しての政党懇談会、厚労省懇談会を取り組みま

した。各懇談会は、公明党・国民民主党と5月27日に、厚労省・立憲民主党・れいわ新選組・日本共産党と5月28日に、社民党と6月7日に開催し、7つの懇談会すべてで障害当事者の参加が実現しました。きょうされんからは50人を超える参加で取り組むことができ、「コロナの影響で仕事が減った。コロナでイベントも減り、仕事のやりがいを感じられなくなっている」「高齢の家族に感染させないように早く作業所でワクチンを打てるようにしてほしい」「コロナの影響で、製造しているせんべいの売上が前年度比50%減、工賃も減ってしまっている」など、コロナ禍における厳しい現状からの訴えを中心に、改善を求める訴えをしつかりと届けることができました。詳しくはきょうされんHPをご覧ください。



WEBでの政党との懇談会

「親の心 子なり」

ぽかぽかとアットホームな
安藤さん家族

ゆうゆう作業所へ通所されている安藤さやかさんのお母さん、安藤シゲ子さんにお話を伺いました。いつもほのぼのと優しい雰囲気の中で仲間を暖かく包み込むような安藤さん。その暖かさのルーツはやっぱりご家族にあつたんだ!!“と思えるような心温まるお話をたくさん聞かせていただきました。

小、中と地元の学校に通い高校からよさのうみ養護学校に通われるようになった安藤さん。よさのうみ養護学校では3年間寄宿舎で生活することとなりました。生活も含めた養護学校での経験がとてもプラスになり、その間に随分と生活する力や物事を考える力をつけてこれらとお話しされていたのがとても印象的でした。

養護学校卒業後、1年間は家で営まれている縫製の仕事の手伝いをされています。ミシンを使った作業も随分とうまくなり、よくお手伝いされていたそうです。その後、ゆうゆう作業所に通所されるようになり20年



安藤 さやかさん

以上が経過しました。作業所では雨の日も雪の日も元気に通所され、給食の配膳作業やせんべいづくりなど頑張っておられます。週一回のくりくりでの仕事もあり、とても楽しみにされています。

作業所でもとてもやさしい安藤さんですが、おうちでも毎年の日には花束や植木鉢などプレゼントを贈ったり、お父さんとは一緒に魚釣りに行き、釣れた魚は安藤さんがさばいて家族で食べるなど、親子仲睦まじく暮らしておられるとのこと。

反抗期の娘がいる筆者にとっても、とてもうらやましく、目指す親子像がそこにはありました。末永くほのぼのとした暮らしが続きますように。

ゆうゆう作業所

管理者 山口 高志



初心を忘れず仲間と共に

月日の経つのは早いもので丹後に嫁いで24年になりました。当時の私には近くに友達はいない、実家も遠方で帰ることもできない、寂しいな...と思いながらの暮らしでした。

そんな時、夫が職場(当時みやづ作業所)の行事がある時に、よくボランティアとして連れ出してくれました。

した。作業所が開

催していた大き

なバザーでは仲

間がオープンン

グセレモニーで

「仲間太鼓」を

披露されていました。

た。一生懸命、太鼓を

たたき姿がとても新鮮

で、楽しそうな表情に感銘を受け

たことを覚えています。

そして、みやづ作業所で知り

合った仲間の魅力を知り、数年後

私も「いきいき」のパート職員と

して入職させていただくことにな

りました。

忙しく走り回る先輩職員さんばかりの中、何をしたいのかわからず、何もできない私に優しく

リレー随想



いきいき
主任 杉本 麻衣子

話をしてくれたのは仲間の方でした。自分の生い立ちや「いきいき」での楽しい行事(夏祭り、クリスマス会等々)について話をしてくれました。そのことがきっかけとなり、私にできることを見つけようと思えるようになりました。

そして、これから私もいきいきでの暮らしを通して、仲間の方と一緒に楽しい日々を過ごしていきたいなあ...と思うたのが、もう16年前になります。

この原稿を書かせていただくことになり、初心を振り

返る機会となりました。これからも仲間の方

の時の想いを少しでも理解できるようにと改めて思いました。

最後に「住めば都」...新婚当時、私にそんな日が来るのかな...と思っていました。が、そう思える日は案外早くきてくれました(笑)

今回は みやづ作業所
支援員 折戸 正朋です。

喫茶花音 元気いっぱい営業中!!

喫茶花音では、「日替わりランチ(700円税込)」が看板メニューです。

野菜をたくさん使った、ヘルシーなメニューを心がけています。ご飯は与謝野町のコシヒカリ「京の豆っこ米」を使用しており、おかわりは三杯まで無料!カレー、ピザ、手作りケーキなどもご用意しています。コロナ対策をしっかりと、慎重に営業中。テイクアウトも受け付けております。お気軽にお問い合わせください。

皆様のご来店をお待ちしております!



日替わりランチ700円



ケーキセット530円

ご寄付御礼

みなさまからのご寄付、誠にありがとうございます。

2021年4月21日〜2021年6月20日
(順不同・敬称略)

西垣 三衛子 福西 恵子

山下 智恵美 日下部 みはる

小西 彬則

その他匿名でもご寄付をいただいております。

編集後記

妻と京丹後へ移住しようと思ったのが4年前。移住して1年半、生活も仕事もすべてが変わり新鮮なものだった。移住してすぐに新型コロナウィルスが世界中で広がって計画していたイベントも全てなくなった。京丹後も新型コロナウィルスにより生活がしばらくなくなって、都会から田舎へと移住してきた僕らにとっては息苦しいものにはあまり感じない。むしろ楽に感じるくらいだ。仕事をし、畑をいじり、散歩をしてゆっくり過ごす。幸せな毎日新しい生命も誕生した。「この大変な時に」「コロナ禍で...」いろいろな声を聞いたがこれほどうれしい出来事に、不安よりも楽しめと期待が勝るのは言うまでもなかった。「男の子かな、女の子かな」「どちらでも。元気に産まれてくれば」どの夫婦でも交わっていたであろう普通の会話がこんなにも胸躍るものとは。産まれてから三か月。日々成長する我が子と共に、夫婦二人も父と母に成長していく過程を楽しんでいる。まだまだ頼りのない父(夫)だが、産んでくれた妻と、産まれてきてくれた我が子に感謝し田舎ライフを満喫していきたいと思う。二人とも「ありがとう」(一六)